

平和を願つて

原爆の悲劇

一九四五年八月六日、雲一つない青空に原爆は投下されました。全長250m。リトルボウイーと名付けられたその爆弾は、一瞬にして広島の町を焼きつくしました。

「原爆」というのは、人工的に核分裂をあざやかに、ごく短い時間に広がる大陸に発生する強大なエネルギーを兵器として利用したもののです。広島に投下されたリトルボウイーと呼ばれるものは、核分裂であります。分裂を起こすためには必要な核分裂物質にウラン325という燃料を使い、百万分の一秒と、膨大なエネルギーを一度に放出する作業が、一度に数十分のうちに完了するのです。これが、さながら山から火の矢が飛んでくるかのようにして、広島の町は

乃せ広島乃の川

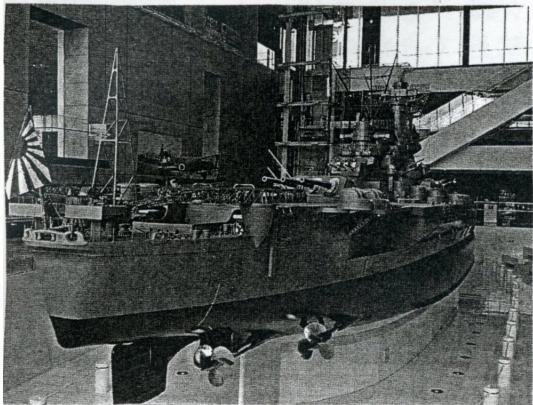


感想心

を下へまつた。八月二日には、広島市長
一目標とする命令が天下山ました。広島
には、連合国軍兵士の捕虜収容所がな
と思われていたためです。そして八月六
日、広島は晴れており、投下目標を目で
確認するところまで天下山め、原爆が投下
されました。

戰艦“大和”と特攻

明治36年、吳海軍工廠がつくられた。そう、大和がつくられた場所である。大和は極秘につくられていた。そこにはいた、吳市民でさえ、うながした。知りうたのは一部の人間、大和づくりに携わった人たちだ。ただ、だけ



必海軍工廠：海軍の工場。

大和の誕生

「大和」とは、今から74年前、広島県吳市で極秘に建造された戦艦のことである。大和は全長263m、幅約40m、高さは約57mといふ巨大な戦艦であり、高さの約57mというものは、現在の一般的なマンショーンの19階の高さに匹敵するものである。そして当時はこれが、吳海軍工廠で4年という年月をかけてつくられた。また、戦艦「大和」には、測距儀や主砲といった、高度な技術が用いられていた。つまり大和は、戦争のためにだけにつくられた、巨大な兵器なのである。

先程述べたように、大和には高度な技術が用いられていた。しかし、なぜ日本は高度な技術をもつ戦艦をつくることができたのだろうか？それは日本が、イギリスから「金剛」という船を買い、しくみを詳しく調べたからである。日本は、金剛のしくみを詳しく調べた上でそれを改良し、大和に取り入れていった。そのため、金剛のボイラーと大和のボイラーはほとんど同じなのである。そういった技術の結晶ともいえるのが、大和最大の特徴、主砲である。この主砲は、長さ約2mの46cm砲とよばれるものである。なんというてもすごいのはその飛距離。46cm砲の弾は、たった90秒で42km先まで飛んでしまうからだ。そんな大和の建造計画を、日本は何通りも考えていた。しかし、これらの建造計画には、すでに46cmの主砲にするに決まっていたにもかかわらず、すべて、40cmとかかれていた。なぜそんなことをしたのだろう？それは日本が、敵国の「スペイン」を意識していたからだ。万が一、アメリカなどの大西洋駆逐艦に見られたとしても、日本の戦闘力の全てを知ることはできるない。実際は、もともと威力のある主砲なのだから。そうして、約3万枚にものぼる設計図を経て、大和はついに完成した。通常の船であれば、大勢の人の中で行う進水式も、大和の場合は、1940年8月8日、極秘に執り行われたのだ。

大和の最期

第一次世界大戦、主戦力は船だ、た。
そのため、ほとんどの戦いは「船対船」
が多かった。しかし、その後に起きた
日本の真珠湾攻撃で、空からの攻撃が有
効であると分か、たために、次第に主戦
力は「海」から「空」へと変化してい

その他の特攻兵器

時攻兵器には他にも、零式艦上戦闘機（通称ゼロ戦）や人間魚雷「回天」などがあつた。そのどれもが、「特攻」といふ恐しい運命を伴うものであつたが、特に回天は、片道分の燃料しか積まない、という残酷なものであつた。

特攻——それは死を意味するものだと
思います。乗ったが最期、もう二度と戻
てこれない。それは、きっと乗組員の人
たちも分かっていたと思います。分か
ていながら、沖縄に向かう。こんなにも
残酷な運命を背負つていた乗組員の人た
ちのことを考えると、胸が痛くなりまし
た。同時に、そんな残酷な運命を手えた
戦争の丸ごとを改めて感じました。また、
今回の研修を通して、皮肉にも科学技術は進歩し
「人を殺す」目的で様々な兵器がつくられていました
ましたが、結局戦争は何も生まないんだと思いました。
戦争は焼りき生み更なる焼りき生むだけなの
です。戦争をする中で、そのまま生きる犠牲に気付い
たときにはもう迷いません。もう取り返しつかない状
況になってしまっているんです。だから、そんな戦争の悲惨さ
を私たちはちゃんと未来に伝えていくことが大切な気がいま
した。世界中でもう一度みんな、「戦争」が起らなければ
とお祈ります。

大和之零戰

OHV 星型 14 气筒

右の見出しに記したのは、零戦に使わ

大和とは、極めて大きくて造られ、世界最大の主砲である、46cm砲をつんだ、これまた當時世界最大・263mの戦艦のことである。この大和は当時の世界最先端の技術でもって造られた。水の抵抗を減らす独特な構造や、42km先まで飛んだ46cm砲、さらに航空機を運ばせる力夕べルトという発射台は、今日でもその技術が応用されていく。

しかし、1945（昭和20）年4月5日、大和・冲縄海上特攻命令が出来れ、翌日、沖縄へ出航中に九州南西沖の海上にて米海軍空母機多數の攻撃を受けた。そして応戦の末、多數の魚雷・爆弾の命中により沈没した。

零戦とは、零式艦上戦闘機の略称で、まさに日本の技術の結晶たる。當時世界最高の動力性能を誇りたといわれている。そんな零戦を造つていたのは三菱であり、後に中島飛行機（現・スバル）も大々さわることとなる。中島飛行機は群馬に工場を持っていたり、たくさん生産することが可能となつた。

零戦は特攻の際にも使われ、特攻隊員が乗り、敵の戦艦めかけてつづこんでいた。ただ、実際に敵の戦艦まで辿りつけたのは極わずか；、残りは撃ち落とされてしまつていた。又、米B29など、零戦よりはるかに高パワー・高性能な航空機の誕生により、次第に零戦は非力な勝てない戦闘機になつてしまつた。

但し効率が悪かれた。重さの遠い、そして何よりも時代が違うか、車やバイクよりも、排気量の割にパワーが小さい。これは仕方のないことなのだ。

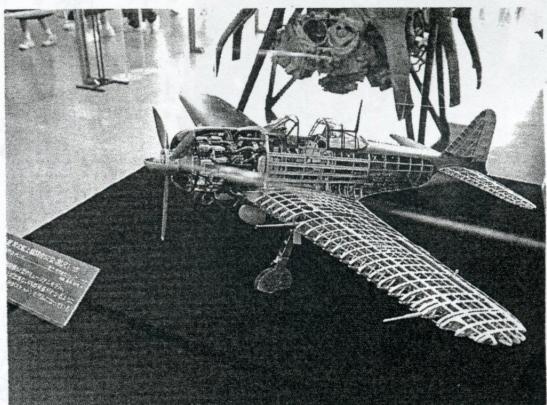
それでも、小さく、軽く、小回りのきいた零戦は、当時（特に、戦争始まつて間もない頃）とても高性能だった。これは、昔からの日本の技術力の高さの証で、現代のものづくりにも続いている日本の技術力の高さは、日本人として誇り高いことだ。

△零式艦上



但し、効率が悪かった。車の速い、そして何よりも時代が違うが、車やバイクよりも、排気量の割にパワーが小さい。これは仕方がないことなのだ。

ものづくりの技術



△零式艦上戦闘機六二型

広島に行つて
学んだこと

一方、大和の主砲・46cm砲は42kmを90秒で飛んでしまった。なんと、発射された時の速度は、秒速700mだ。大というから驚いた。この他にも、5.4km先まで見える八人式三型潜望鏡や世界初の翼のついた潜水艦・海龍などからも、当時の日本の技術力の高さが伺え

空機、そしてエンジンを造れなかつたの
だろうか。……だからそれも不可能なこと
だつたのだろう。戦局は悪化し、再開発
をしていく時間も入手もなかつたのかも
知れない。

廣島研修で、色々なことを学んできた。戦争の悲しさや、核の恐ろしさ、平和であることの有難さ……。これまで書いてきたものは全て、敵を倒すために総力を上げて造られたものだ。いざれも、戦争のために造つてはならないものだ。たかが、ものが悪い訳ではない。それを生み出した人間、それを戦争に利用した人間が悪いのだ、ということを忘れではない。

そして存知の通り、広島にはマツダという自動車会社がある。マツダは自身も原子弹爆弾の被害に遭い、避難所としての役目をしていた。それが今では、いたるところで見かけるマツダ車。そんなマツダのようだ、人々の幸せ・平和を創るものづくりをしていかなければいけない。

特攻隊員か
特攻機

残隊員か
したもの

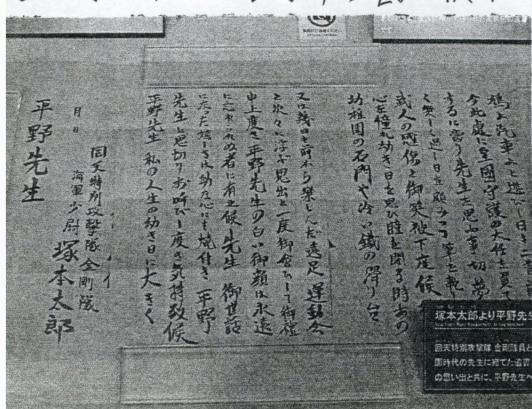
特攻機

特攻機大平洋戦争では、戦艦大和以外にも、人間魚雷「回天」を使つた特攻や、零式艦上戦闘機「ロッキード」を使つた特攻が行われました。人間魚雷回天は、コックピットドームにても小さく、人間一人が寝そべる程度に操縦席に座り、四日間一睡もせずに操縦し続けました。回天では、身動きが全く取れないため、トイレは操縦席の下にそのままついており、少量の食べ物が手に取れる場所においてありました。他にも、特攻にて、20歳前後の若い人が何千人も亡くなりました。もう、こんな悲しいことは絶対に繰り返してはいけないです。

特攻隊員

戦艦大和は今から七十多年前、広島県呉市で極秘で作られました。外國から船を買ひ、その技術を学び、さらに発展させ当时世界最強の戦艦「大和」が誕生しました。全長二十六三メートル、高さ五一メートル、幅四一メートルの船体で、大和には主砲六門、副砲二十四門、機関砲四門、魚雷六門、水雷四門、防護甲板厚さ五センチメートルの、世界にも類を見ない大砲がつんでありました。また、当時の冷蔵庫は無かつたのですが、大和には三千人分の一日份の食料が入る冷蔵庫がございました。また、大和から戦闘機を飛ばすためのカタパルトは現在新幹線の台車の原形となっています。このエクスカイア戦艦「大和」は当時の技術を駆使して作られた世界最強の船であり、その技術が現在にもちつながり、いのちのです。

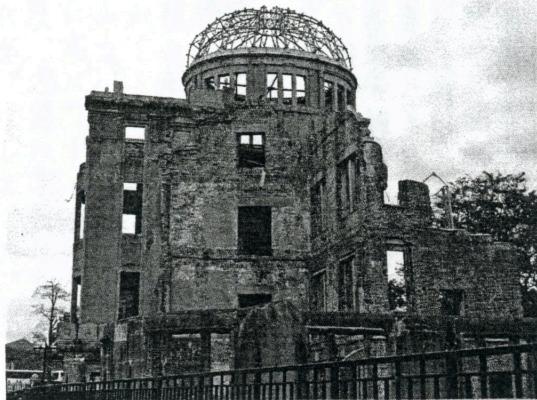
「日本にさきがけて散る、まさに本望だ。やないかく、さも怖い。」
「誰も怖くない。」



廃していません。また、出撃前の塚本太郎さんが残した、肉声のレコードの遺言です、おじいさんの「余生に費やされる精力の全てをこの一瞬に捧げよう。」中略で「おやじの、おじいさん」の「ひいおじいさんの血が叫ぶ、血が叫ぶ」と、「おしゃっていきます。今の私達には計り知れないような恐怖や苦しみ、辛さが伝わってきて胸が押し潰されそうになります。」生き続けたい。本当の自分の気持ちを振り切り、表面上だけでも自分を納得させたためには「特攻で死ねることこそ光榮」と思ふようにするしかなかつたことが分かりました。また、塚本太郎さんの内声の遺言です、「みんな、さよなら!」元気で征きます」という言葉が忘れられないし、このように特攻で亡くなつた人がたくさんいる、それが戦争であることを忘れてはいけません。そして過去にこのような「戦争」があつて、今の私たちが「生きている」ということも自覚しない

忘れぬいために、
私達は、二日間の広島研修を通して、一戦争と「平和」について深く考えることができたまし
た。私達が今、当たり前にご飯を食ったり、
学校に行ったり、家があり、たりする「とは日
本が「平和」だからできる、ということが気
づくことがありました。過去の戦争で、た
くさんの人々が恐怖を感じ、苦しみ、辛い思い
をしました。又、特攻にいって戻人達も、決して
いい、たくていい、たわけではなく、未来一日
本の平和を築いていくため、そして、今の
私たちに生きていほしいこという願いがある
のだなと思います。私達は、その思いを受け
継ぎ、「平和」をつなげていかなければいけ
ません。だからこそ、一人一人が「平和」に
ついて考え方、過去について知ること、感じよ
うとすることが大切だと思いました。そして
過去、「あゝ天下戦争」を未来に伝えていくこ
とが、
未来の平和を築いていくмыслいます。

原爆を知らない人達へ



平和記念公園

この公園には、平和の鐘や平和の池、靈碑や平和の灯などの様々な物があります。平和の鐘は一九六四年に造られました。この鐘の音は外と内とで異ります。またこの鐘には世界地図が彫られていて、国境がありません。これは「世界は一つ」といふメタセーシだそうです。平和の池には原爆で死んだ人々の慰靈碑があります。そこには一〇九冊もの名簿があり、二九七六八四人の名前が書かれています。そのうち五三五九人は二〇十五年で死亡しました。人だそうです。平和の池には「平和の灯」という物があります。これは台の上で火が燃えており、火は核兵器を表し台は手をイメージした形です。この火は核兵器が無くならないかぎり燃え続けます。雨が降っても風がふいても消えません。また、ここには被爆したアオギリという木や、珍しい形をした相生橋や、平和時計塔などがあります。この時計塔は毎日八時十五分になると音が出来ます。

は即死で、建物は木造の物は全焼でコンクリートの物も少し破壊しました。それでも残っていた建物もあり、それが原爆ドームと元大正屋呉服店という店です。原爆ドームは、上からの衝撃をドーム状の部分が受け流したとされます。呉服店は、全体的にコンクリートで造られていましたたためだとされています。死者は現在も正確にはつかめていません。市ではその年の十二月末までに約一四万人が死亡しましたとされています。

原爆はその後も放射線で白血病や人体障害などひを引き起こし、放射線がふくまれた雨を降らせました。これを黒い雨といいます。当時は水を求めていた人が多くおり、この雨を飲んだ人は三ヶ月下痢に苦しめられました。

感心相心

僕はこの広島研修を終えて、自分は原爆に無知だ、た事を知りました。自分では色々知つていろと思つていたけれど、平和記念資料館や記念公園やカイドさんのお話を聞いたりして、知らなかつた事ばかり教えてもらいました。原爆の子の像の話や当時の広島の様子などさまで、すごく勉強になつた二日間でした。平和記念資料館で写真やパネルを見て、原爆は、二度と使つてはいけないおそろしい物だと思いました。一度にたくさんの人々の命をうねつた兵器に怒りを感じました。当時の広島の人達も、そうだ、たとえます。でももしくなります。でも、いつかは核兵器がない世界がくるといいと思います。それにも、原爆のおそろしさと起こった悲しい出来事はいつまでも忘れずにはいけないと思います。

平和記念資料館は平和記念公園の中にあります。建物です。中には被爆者の人形や映像や写真があります。一番最初に思いい出する物は、八時十五分で止まつた時計です。爆発した時の熱風や衝撃で瞬間に壊れるそうです。また、具かわからぬいくらい黒くなつた弁当や、一つにくつついてしまつた硬貨や、被爆者か身につけていた服やくつがありました。他にも三輪車や学生証などの身近にあるものもありました。写真やパネルを見た時はショックを受けました。本当の写真か信じられないほどでした。

平和記念資料館

戦艦『大和』の

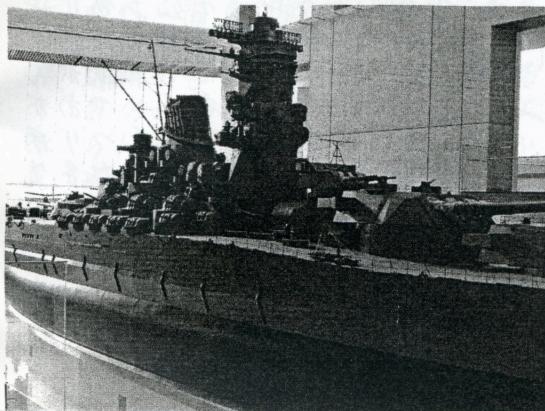
歴史を未来へ

戦艦大和のまち

戦艦大和を建造した東洋一の軍港として栄えたまち、呉は、戦後、戦前から建造成るなど、日本が戦後約10年ほどで世界一の造船国へ発展する一翼を担いました。その後、有数の臨海工業都市として発展し、日本の近代化に大きく貢献しました。

戦艦大和の特徴

戦艦大和の全長は263m^m、幅57m^mで、イギリスから買つてきた金剛を参考にしてつくられました。大和は極めて重い主砲の弾は42km^m飛び、世界最大の38.9cm砲で、乗組員は3000人です。大和の司令塔には厚さ50cm^mの鉄集中防御しました。浸水しても他の区画に拡散しないよう、部屋がたくさんあります。建造費用は1億3780万円で、現在のお金でいうと3兆円です。大和は、世界最大、最強の船艦といわれた大和が、その技術が使われています。



戦争に使つた特攻

繩海上特攻の命令が下され、アメリカ力軍が上陸した沖縄へと向かいました。救援護する航空機もなく、大和の他にも9隻の駆逐艦など第2艦隊約7200人は沖縄へと向かいました。そして、昭和20年4月6日、沖縄に向かってた大和と第2艦隊は7日に九州に南西沖の海でアメリカ海軍に多数の攻撃を受けました。大和は応戦しましたが多数の爆弾の命中などによつて、午後2時276人もの命が失われました。生存者は350人になりました。生き残った人々の命が失われました。大和の海の底にあります。

感心
想心

私は、広島研修でたくさんのこと学びました。今までにも、戦争について学ぶ機会はありませんでしたが、こんなにも深く和平について考えたことはありませんでした。戦争で、広島に原爆が落とされて、広島にいた人はたくさん被害を受けて、苦しむといふことです。でも、広島にいた人だけではなく、その家族も苦しむ。特攻で命を失うことになる人も、その大切な人を別れる辛い気持ちを振り切つて、特攻で死ぬことを覚悟しなければならぬことがあります。本當に残くなことだと思ひます。いこは、本當に残くなことだと思ひます。特に向かう乗組員も、戦争で得られるものは何もないとか、いても、向かわなければばならないが、本當に辛いと思ひます。もう二度とこんなことがないよううにと思ひます。戦争に使われた色々な特攻で、訓練からたくさんの人の命が失われて、その頃の日本人間の命をかるく考へていたのだと思ひます。それは、本当に悲しいことでだし、許せないことです。でも、世界にはまだたくさんの人達が毎日、何事もなく平和に生きています。それが当たり前ではなく、生きたくても、生きたいことがあります。それができなかつてはなりません。國が戦争をして苦しんでいる人が大勢います。私が生きていることは、とても幸せなことだと気が付きました。一日でも早く世界の人々が笑顔になればいいなと、心から願っています。

他にも、零式艦上戦闘機、ゼロ戦もありました。ゼロ戦は、翼の一部が布になっていたり、人の命よりも飛行機の性能を重視していました。約6人がなくなり、4割が20代でした。

平和な世界を目指して

原爆時の被害
一九四五年（昭和二十年）八月六日午前八時十五分、広島は世界で初めて原子爆弾の被害を受けました。広島に落とされた原爆はウラン二三五が使われました。爆薬を使用し、塊をぶつけ合せさせることによつて瞬間に臨界量以上にあるようにならました。臨界量以上に達すると百万分の一秒という極めて短い時間に核分裂をおこなった。膨大なエネルギーが一度に放出されました。原爆をおどされると、きのこ雲といふ雲が見られるそうです。この原爆により一九四五年（昭和二十一年）十二月末までに、約十四万入もの人がお七くなりになりました。
このときは、黒い雨が降ったそうです。原因は、チリやほこりなどが舞いあがり、雨が混じって黒くなりました。この黒い雨におり海水では、魚などが死んで浮き上がり、死んだ魚をうけたそうです。

平和記念資料館、平和記念公園
平和記念資料館に原爆時の模形がありました。原爆は1ムカドゴの大きさの落とされた原爆の火球がさうに大きいことに気が付きました。

原爆について

僕は今回の広島研修で平和についてたくさん学んできました。僕は今まで「平和」の意味を考えたことがありませんでした。でも、今回の広島研修で「平和」について考えることができました。

戦争について

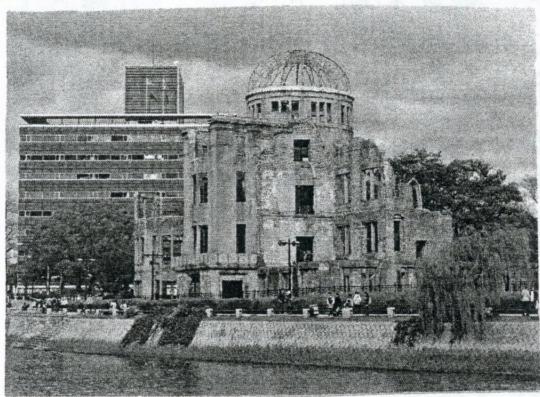
佐々木禎子さんが病気を治さうと一生懸命
つくりた折り鶴がありました。そのころ飲んでいた薬の包み紙でつ力をおつしていました。
思つていたより小さくておどろきました。
平和記念公園では平和の鐘といふものがありました。それは香取さんがつくりしたものであります。
お寺などにある普通の鐘は、音がなくていなくて、中に入ると、鼓膜が破けたものですが、
香取さんが工夫して音がなつていいなくて、中に入つても、鼓膜が破けないつくりになつていました。ガイドボランティアの応和さんの話によると、人の骨の数え方は柱だそうです。

研修を終えて

この広島研修を通じて僕が考えた平和は、全員が普通に暮らせるということです。なぜかといふと、全員が普通に暮らせたら、身分などのは差もなく、戦争などがなくなくなると思つたからです。

「昭和二十年（一九四五年）四月五日、戦艦大和は、大和に向けて、昭和二十年（一九四五年）四月六日、艦隊は翌七日、九州南西沖の海上において、アメリカ海軍空母機多数の攻撃を受けました。大和は応援の末、多數の魚雷・爆弾の命中により、十四時二三分に沈没しました。乗組員三三三二名うち生存者は二七六名。三〇五六名の命が失われました。」
「大和は今も水深三五〇メートルの海底に眠っています。」

○大和ミュークアムで学んだこと
○大和工廠で武器などをつくる場所
○大和に乗ついた人たちは、家族の人や働いていた仕事です。
○大和には最強の武器がありました。それは、四一千砲という主砲です。この四一千砲をつかえば四二キロメートルをと



平和記念資料館、平和記念公園
に原爆時の模形がありま
した。原爆は一ムがすびい大きのに落
とされた原爆の火球がさうに大きいこと
にすごくおどろきました。

大和ミューークリアムで学んだこと
海軍 工廠 武器などをつくる場所
この三つは、当時、「大和に乗つて」いた人た
ちや家族の人間働きでいた仕事をです。
大和レには最強の武器がありましめた。そ
れは、四一千キロの主砲です。この四
一千キロをつかえれば四二キロメートルをと

佐々木禎子さんが病気を治そうと一生懸命^{がんば}です。
つづけた折り鶴がありました。そのころ飲ん^フ日本の新生にさきかけて散り、まさに
でいた葉の包み紙でつるをおつっていました。本望^{じやねい}か。
鬼つていいぢやリ小さくおせうせ年^{ねん}へど。これまた大口^{おほくち}に副砲射撃指揮官として仲

平和を願ひ

平和記念公園

平和記念公園で、いろいろな慰靈碑などを見ました。この慰靈碑などには平和を願う気持ちやさまざまな思いが込められていました。

原爆の被害

一九四五年八月六日、午前八時十五分。広島に原爆が投下されました。爆発の瞬間強烈な熱線と放射線が四方へ放射されるとともに、周囲の空気が膨張して超高圧の爆風となりました。強烈な熱線によるやけどまたは、一瞬で消えてしまう人もいました。さらに、火災もおきました。火災により、爆心地から半径二キロメートル以内の地域はこごとく焼夷し、倒壊した建物の下敷きになつて生きながら焼かれ、亡くなつた人も数知れません。爆風では、建物が倒壊し、人々は吹き飛ばされ、即死した人、負傷した人、倒壊した建物の下敷きになつて圧死した人が相次ぎました。原子爆弾では通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出されました。爆心地から約一キロメートル以内にいた人は影響を受け、その多くは數日之内に死亡しました。また、外傷か全くなく無傷と思われた人々が、被爆後月日が経過してから発病し、死亡した例も多くあります。さうに彼障害も引きおこしました。原子爆弾による放射線は、被爆後の急性障害、発熱、はきけ、下痢などだだけではなく、被爆後五、六年が経過した頃から白血病患者が増加し、その後、甲状腺がん、乳がん、肺がんなど悪性腫瘍の発生率が高くなり始めました。このように長期にわたってさまざまの障害を引き起こし、被爆者の健康を現在もなお脅かし続けています。原爆によつて亡くなつた人の数については現在も正確につかめていませんが、広島市では一九四五年十二月末までに、約十万人が亡くなつたと推計しています。

原爆ドームは
います。登録名
言います。原爆
水る以前に、原爆
べきではない。
すが、一人の高
久保存すること
原爆ドームの
しさをうつたま
のでした。平和さ
戦争の悲惨さ、
いけないという
が原爆ドームで

原爆ドームは現在世界遺産に登録されて
います。登録名は「ピースモリアル」と
言います。原爆ドームが世界遺産に登録さ
れる以前に、「戦争を思い出すので保存す
べきではない」との意見もありました。で
すが、一人の高校生の日記がきっかけで永
く保存することになりました。その日記は
「原爆ドームの痛々しい姿が戦争のおこう
しさをうつたえてくれるだろう」というも
のでした。平和な今を繋きあげていっても、
戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを忘れては
いけないという思いをうつたえてくれるの
が原爆ドームです。

感想

三脚のドーム型の台座の上に少女の像が立っています。この少女は佐々木禎子さんかモデルであると言われています。佐々木禎子さんは二歳のときに被爆しましたが、その時は外傷もなく元気に成長しました。しかし、十年後の小学六年生の秋に突然白血病を発病し、八ヶ月後の十月に七くなりました。佐々木禎子さんは鶴を千羽折ると病気が治ると信じ闘病期間中包装紙などで鶴を折り続けたと言われています。像の少女佐々木禎子さんが棒を持っているのは折り続けたという鶴をかたどったもののです。像台座の下に置かれている石碑には「これはぼくらの叫びです、これは私たちの祈りです、世界に平和をさくための」と刻まれています。原爆で亡くなつた子どもたちの平和への祈りがこめられていました。

銛は「悲願」といい、亡くなつた方が平和を願つてゐるという意味が込めてあります。平和の鐘はその形など全てに意味があります。鐘桺は宇宙をイメージしたドーム型、鐘の表面には国境の無い世界地図が描かれ、鐘をつくための撞座には核兵器を打ちこじれたいという思いから原子弹マークが刻まれています。原子弹マークの反対側はつく人の心を映す鏡をイメージしてあります。鐘桺の周りには蓮池があり、これも、原爆で被爆した人々がこの火傷の苦しみをハスの葉で包んでいたとしめた事からなのです。平和の鐘は平和とそれを願う人の心と戦争の犠牲者への鎮魂の心が込められてあります。

私は今まで平和について何を考えていました。それは、平和なのが当たり前だと思つていたからです。ですが今回の研修で戦争のおどろしさや非倫和平和のありがたみを学び、そして平和について考えることができました。また、平和記念公園内にある慰靈碑などの一つ一つにさまざまな思いや意味、平和を祈る気持ちが込められていくことを知り、現在はまだ平和な世界とはいえませんが何としてでも平和な世界にしていかなければいけないと強く感じました。平和の原点は人の痛みを知ることとし、これはボランティアさんが贈ってくれた言葉です。この言葉がとても胸にひびきました。この言葉の通り、人の痛みを知ることができれば戦争がないう世界が近づくと思います。平和な世界が実現するまで、私は平和を願ひ続けていきます。

戦争と平和

原爆

原子弹爆弾一原爆一は、昭和二十年八月六日午前八時十五分に広島に投下された重さ47tをこえる巨大な爆弾です。原爆被害には、通常の兵器とは違ったところが大きく分けられます。
1つ目は、三千度と四千度もある熱線です。この熱線で、鉄や銅が溶けて、鉄橋や線路が曲がりしまして、人々も一生残るような重度の火傷を負い、爆心地に近い所にいた人々は、皮膚が溶けたほどの熱線を浴びました。
2つ目は、空気が膨張して超高压になつた爆風です。この爆風は、秒速三万キメートルというもののすごい速さで人々を襲いました。爆風の圧力は十九トンにも達し、周辺の建物は一瞬にして倒壊しました。最後は、原爆によって、爆発した人々の多くは、その日の内に死んでしまって、大量の放射線です。原爆は、広島県の相生橋の上空に起爆され、近くにあたった産業奨励館へいた人々は、反応せんじでした。

原爆による障害

原爆により放出された放射線は、爆心地から半径一キロメートル以内にいた人に、障害を与えました。しかも、原爆は爆発後に長時間にわたって、残留在放射線へ核分裂によるイオニシングされた放射性物質と、土やがれきの原子核が反応して生まれた放射線を地上に残しました。このため、救援活動のために爆心地へ爆行した人も発病したり、死んでしまった人を救ひました。しかし、心地の近く以外にも、周辺にあら都市には、放射線物質を含んだ黒い雨が降り、多くの人は

一定量以上に達すると、百万分の一秒と、ラ極めイ短い時間に核分裂が連続し、イ起こり、膨大なエネルギーが一度に放出されました。爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が放出されるとともに、周囲の空気がそのすごい力で膨張し、爆風となりました。



廣島研修を終え

雨を飲んだ人は皆、三ヶ月以内に七八ヵ月以内に死んでしまった。
被爆から五、六年経つた昭和三十一年頃からは、病患者が増加し、昭和三十五年頃からは甲状腺ガン、乳ガン、肺ガンなど悪性腫瘍の発生率が高くなり始めました。放射線が年月を経て引き起こす影響に、今は現在でも十分に解明されておらず、調査や研究が現在古続けています。

歴史を 未来へ！

放射線による被害

原爆の恐しさはそれだけで終わるか、たのだ。これまでの大轟を爆発させたときもたゞすることになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は被爆をもたらすことになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は致命的な影響を受けた。また、外傷が全かれだ。それだけではない。物や心、人の未来さえもそのたつた一瞬ですべて奪われてしまつたのだ。その恐しき兵器こそが原爆である。

「初期放射線」は原子爆弾が爆発したときもたゞすることになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は被爆をもたらすことになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は致命的な影響を受けた。また、外傷が全かれだ。それだけではない。物や心、人の未来さえもそのたつた一瞬ですべて奪われてしまつたのだ。その恐しき兵器こそが原爆である。

広島に落とされたのは通称「トリトルボーエ」という一見かせいらしい響きの爆弾であるがこの爆弾は当時の人口三十五万人のうち約十四万人もの命を奪つたのだ。ウランを材料とし、百万分の一秒といふ極めて短い時間に核分裂を連續して起こし、膨大なエネルギーが放出された。爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が放出されるとともに、周囲の空気が膨張し爆風となる。そして爆発したのは市街地のほぼ中央だ。これが広島市とその周辺の地域を広い範囲で包み込んだ。この雨の中には強烈な放射性物質が含まれており、この地域で井戸水を飲んでいた人の多くは、その後三ヶ月後に下痢をした。



平和記念公園について

一日目に訪れて、多くの慰靈碑や平和を象徴する像を見てきました。そこは今、被爆後七十年は生えないだろうと言われた木々が生え、過去に原爆が投下されたことだ。た。

「初期放射線」は原爆が爆発したときもたゞすることになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は被爆をもたらすことになつた。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は致命的な影響を受けた。また、外傷が全かれだ。それだけではない。物や心、人の未来さえもそのたつた一瞬ですべて奪われてしまつたのだ。その恐しき兵器こそが原爆である。

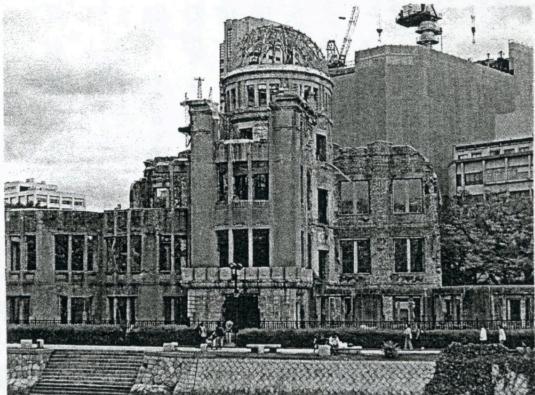
さうに原爆は、長時間にわたって残留放射線を地上に残した。このため、肉親や同僚などを捜して被爆後に入市した人々の中には、直接被爆した人と同様に癪病したり、死亡する人もいた。また、「黒い雨」と呼ばれる爆発により

広島研修を通して

私は今まで「戦争」というもの恐怖を感じ、知ろうとはしませんでした。しかし今回の研修を通して私たち日本人は戦争から目をむけずに向き合わなければならぬと思いました。現地のがイドさん達の心から平和を願い、そのことを未来へ伝えていきたいという思いを強く感じました。広島へ行き多くの事を学びました。公園内の物はどれも強い思いや願いが込められていた。言葉では言えないほどの大好きな悲しきを感じました。戦争はいけないこと、原爆を繰り返してはいけないことを自分には何もできませんが将来、平和な未来を作つていく一人になりたいと今回の研修を通して感じることができました。

私達は実際に平和記念資料館の館内で原爆によつて形が変形してしまつた敵々の物を見ました。その内、瓦のような普通ならやがれられないかたいで、原爆の威力の大きさを肌で感じさせられました。

であ地口衝後り点火未さ広つもに民レ科ハ
したハ火擊ものはてましま島か正よやたの時
たりら、波追空數いで市の確上空約十五
。丁五トは、気十まに下で准にて人當一九四五年
爆九百ル、てが万す、一は足死が時
風トメ先爆強膨氣。約九放のかせり、六百メハ
かノ、チ發烈張庄原十四射數めしに広島市、ハ昭和二
ら、ハトゴのなしと子四五線字てたヒ島市、ハ原
さ達ル違約爆て、爆万年ハがい人准
ますのレナ風術う弾入へよ公主の定ハト爆十
る所、秒か擊超のか昭る表せ數すはル爆十
と、とでそ後次波高爆死和急さんハ此約のか年
、リ一のベキが庄発二性火。つて三地落
中ウ平庄は振発とのレナ障てニ、ハ
心強方カ約、生な解た年寄リれてま五でさ月
部大メハ三まし、リ間と、がままほす万爆れ六
のな、レシ、推十一す。人発、日
空もト爆士下を、現原のし島午
気のルバキ。のゆ発、月お、く在爆市ま外前



原爆の物質を構成してゐる原子の中心にある原子核を人工的に壊すと、大量のエネルギーが、熱や人体に危険な放射線を放出され、

平和を繋ぐ

内如手手、同年十月二十五日、八ヶ月の闘病生活後、十二歳といき短い生涯を終えました。

人平和を守るため

平和記念公園にあら、原爆の子の像は
一年間に約千万羽の折り鶴が、ささげられ
ています。この像は横子さんのお悲しい知らせ
を聞いた同級生たちが中心になつて、横
子さんをほじめ原爆で亡くなつた多くの子の像
とともに、おもむく慰靈し、平和を守るために
して、各地から寄せられた募金によつて
作られました。

A black and white photograph of the Hiroshima Peace Memorial (Genbaku Dome). The dome, a skeletal structure of twisted metal, stands as a powerful symbol of the atomic bombing. In the background, a modern multi-story office building with a grid-like facade is visible. The foreground shows some greenery and a paved area. The overall atmosphere is somber and reflective.

それから、かくかイドボランティアさんの
お話を、「原爆が投下されて三日後に広島
で路面電車が動きだした」というのがあり
ました。そのお話を聞いた時に、私は日本
の温かさと優しさに心を打たれました。
なぜならこの路面電車は「お金のない人
から」はもうやくなくて「いいから」といふ思
いで原爆が落ちてすぐ「動きだした」
からです。

最後に、二日間の広島研修を終えて原
爆は人の命だけでなく、夢や願いまでを
奪うばつてしまふ恐ろしいものだと改めて
感じたと共に、資料の一つ一つに人々の
悲しみや怒りが込められていて、核兵器
のない平和な世界を実現しなければと思
いました。少しでも早く核兵器を廃絶さ
せるため、今この時代に生きる私達が、
核兵器のない世界を実現しようとすら強
い意志を一人一人持つ事が、平和に繋が
る第一歩だと思います。

一九四五八年六月六日、午前八時十五分。広島は日本で初めていや、世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。原爆は一瞬にして街を破壊し、にくさんの人の命を奪っていました。なぜなら原子爆弾が爆発をする瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ放射されると同時に、周囲の空気が膨張して超高压の爆風となり、これら三つが複雑に作用して大きな被害をもたらしながらです。また原爆による被害の特質は、大量破壊。大量殺りくが瞬間に、かつ無差別に引き起されたこと、放射線による障害がその後も長年にわたり人々を苦しめにしたことです。

佐々木楓子さんも原爆による被害を受けた一人です。楓子さんは二歳の時に、爆心地から約一、六キロメートル離れた楠木町で被爆しましたが、無傷でした。その後は運動会でリレー選手として活躍するほど、元気で活潑な少女に成長しました。ところが、小学校六年生の秋から徐々に体調を崩し、翌年の一九五五年二月、白血病と診断されました。折り鶴を千羽折れば病気が治ると聞いた楓子さんは、薬の包み紙はで鶴を折り続けましたか、との願いも叶

元石原はないのです。なぜなら二の炎は、
核兵器を表しており、地球上から核兵器が
なくなりた時に火を消すからです。つまり
まだ炎が燃えてい石といく事は、この地球
上に核兵器が存在してい石なのです。
また世界へ核兵器反対も伝えたいた
めや、広島の悲劇をもう一度繰り返してほ
しくないという思いは勿かり原爆の恐ろ
しさをたくさんの人々に知つてもらうため、
一九六六年、原爆ドームを永久保存する事
に決かれました。